

ミスター・サイコパスと「子供の死体のある楽園」

Greatchain

April 3, 2021

この2枚の絵は、ご存知の方も多いと思うが、有名な、アメリカのデンバー国際空港の通路を飾る壁画の一部である。この表題とこの絵で、何が話題かを瞬時に察知する方が、もしおられたら、ほとんど話すことはない。我々は今にも、この絵が実現するのを待っているような状況にある。



先日、Infowars の談話で、デイヴィド・アイク (Icke) が、あの前ファイザー社副社長 Dr. Michael Yeadon の言葉を引用して、激怒しながら話していたことに誘発されて、私ももう一度念を押して、これを取り上げることにする。

まず、Infowars の記事のタイトルと、その内容を引用しよう。

前ファイザーVP がワクチン謀略の蓋を吹き飛ばす：「これが大規模な人口削減のために利用される可能性は十分にある」

By Adam Salazar

April 29, 2021

「もし私が世界人口の 90%か 95%を削減しようと思うなら、私はまさにそのようにするだろう。そして私は、彼らがそれをやろうとしていると思う。」イエードン博士は、「優生学者たちが、権力のテコを握っている」と警告する。



「ジョージア・ガイドストーンズ」：有名な、人口削減計画を宣言する石碑、世界人口は 5 億人以下でよいと言っている。ワクチン運動をする人々は、その背後にあるものを知っていなければならない——訳者

最近のインタビューで、イエードン博士は、十分にテストされていない mRNA ワクチンの危険を指摘し、保健や政府の役所によって、それが民間に強制されていると警告している。

何か月もの研究と、32 年以上におよぶ経験の後、イエードン博士は、ワクチンと booster shots (勢い付け追加注射)と、存在しない規制が、「邪悪な (nefarious) 目的」のために容易く利用される可能性のある、システムを創り出しているという結論に到達した。

[Amerika's Frontline Doctors](https://www.americasfrontlinedoctors.com/exclusive-former-pfizer-vp-to-aflids-entirely-possible-this-will-be-used-for-massive-scale-depopulation/) や [LifeSite News](https://www.lifesitenews.com/exclusive-former-pfizer-vp-to-aflids-entirely-possible-this-will-be-used-for-massive-scale-depopulation/) とのインタビューで、イエードンは、地球規模の人口削減アジェンダが心配だと説明した。

<https://www.americasfrontlinedoctors.com/exclusive-former-pfizer-vp-to-aflids-entirely-possible-this-will-be-used-for-massive-scale-depopulation/>

<https://www.lifesitenews.com/exclusive-former-pfizer-vp-to-aflids-entirely-possible-this-will-be-used-for-massive-scale-depopulation/>

「もしあなたが、有害で致命的でさえある、ある特徴を作り出そうと思うなら、あなたは、〈ある遺伝子を入れよう〉と言って調整し、9 か月で肝臓障害を起こさせるようにすることもできる。また、あなたの腎臓が壊れるようにして、しかしある種の組織に出会うまでは大丈夫にしておく—— [そういうことは全く可能だ]。バイオテクノロジーは、正直なところ、あなたに無限の方法を提供し、数十億の人々に障害を与えることも、殺すこともできる」と、イエードンは、LifeSite News の記者 Patrick Delaney に語った。

「そして、変異種とか、トップアップ (booster) ワクチンとか、規制的考慮がないとか、どの [医療] 手段を取っても、益となる説明 (benign explanation) を私は考えることができないのだ。…益となる説明だけでなく、説明されている手段、説明されるシナリオ、それにこの誤った問題に対する、必要な解決の種類が、私の説明していることを許そうとしている。すなわち、未知の、不必要な遺伝子配列が、必要もなしに、可能的には何億もの人々の腕に、注射されようとしているのだ。」

「私が非常に憂慮しているのは、…この通路が利用されて、大量の人口削減が行われることだ。なぜなら私は、どんな益となる説明をも考えることができないからだ。」

このインタビューの別の所で、イエードンはつけ加えた、「もし私がこの世界の人口を、90%から 95%も減らそうと思うなら、これこそ私がやるであろうことだ。そして私は、彼らがそれをやろうと思っていると思う。」

「今、私は、彼らがあなたを殺すために、このやり方を利用しようと思っているかどうか知らない。しかし私は、これが [治療の] 益となる理由を考えることができない。そして、あの権力があれば、彼らは確かにあなたを害することも、コントロールすることもできるだろう。だからあなたは反対して、強力に戦わねばならない。」

この元ファイザーの科学者は、政府は直接に人々にウソをついている、そしてこの種のやり方は「権力のテコを握っている優生学者たち」にとって、非常に好都合なのだと言明した。

「この優生学者たちは、権力のテコを握っていて、これは、あなた方を整列させ、あなた方を害する、何か不明なものを受けさせる、非常に巧妙な方法なのだ。私はそれが現実に何であるかを知らない。しかしそれはワクチンではなかろう。なぜならそれはあなたに必要がないからだ。そして、それはあなたを針の先で殺すことはなかろう。」
なぜなら、あなたにはそれがすぐわかるからだ。」

イエードンは、先月、America's Frontline Doctors とのインタビューでの感情をエコーして、人々は「トップアップ・ワクチン」つまり、「ブースター・ショット」に近づくべきでない——それは、ファイザーやモデルナのように、2回の分量を要求する Covid ワクチンのことだと言った。

「私は〈トップアップ・ワクチン〉(booster shots)の問題に戻らねばならない。そして私が、うまく利用され、我々が比類を見ない権力に引き込まれるのを恐れているのは、実はこの全体の物語なのだ。

「どうか、すべての人々に、トップアップ・ワクチンには近づかないよう警告してほしい。その必要は絶対はないのだから。

「その必要は全くなく、にもかかわらず、それらは(ビッグ)ファーマで製造されており、規制する立場の者たちは(安全テストもなしに)傍観しているので、私はそれらが、邪悪な目的で使われるものと、推論せざるを得ない。

「たとえば、もし誰かが、次の数年間に、世界の人口のかなりの割合の人々を、害するか殺すかしようと思うなら、今、現在、使えるようになっているシステムが、それを可能にするだろう。

「私が今、考えていることは、このシステムを膨大なスケールの人口削減に使うことが、全面的に可能だということである。」

イエードンは昨 10 月に、見出し記事を作って Covid による死亡と感染の統計を設け、幅広く報告して、このよう見解を述べた。

<https://lockdownsceptics.org/what-sage-got-wrong/>

「このパンデミックを鎮静させるのに、ワクチンの必要は絶対に何もない。私はワクチンについて、このようなナンセンスが話されるのを聞いたことがない。あなたは、病気の危険性の全くない人々に、ワクチン接種することはない。また、問題もなく健康な数百万の人々に、人間被験者に広くテストされていない、ワクチンの接種をする計画はやめなければならない。このことを私は、製薬業界に30年間いた後で、知っている。にもかかわらず、そのような動きが始まっている。」

それ以来、彼は、この問題について沢山のインタビューを行っており、その多くは [Bitchute](#) に見つかる。

<https://lockdownsceptics.org/what-sage-got-wrong/>

David Icke の Dr. Yeadon とのインタビューは [BanThis.TV](#) で見ることができる。

<https://banned.video/watch?id=606754d6d0ce9b7a32df32e8>

次のインタビューでは、Yeadon 博士は、ワクチン・パスポートの危険を警告している。

以上で翻訳を終わり、私の記事に戻る。

ここでイエードン博士から我々の学ぶ教訓は、遺伝子操作によって我々の持つゲノムに変化を加えることは、比較的簡単だが、それはその結果が、マイナスに働く場合、すなわち我々に健康の劣化や、機能不全をもたらす場合に限る、ということのようだ。それがプラスに働く場合、すなわち健康の増加や病気の解決につながることは、ほぼないということらしい。したがって、mRNA による、騙しのワクチン治療が、(本来の癌の治療はいざ知らず) 我々の病気を治癒するとすれば、それは破壊が一時的に、改善として錯覚されるということではなかろうか？ したがってイエードン博士は、「トップアップ」=booster、つまり2度目の強いワクチンを信用するなど、しきりに言っているのだと思われる。

これは裏を返せば、最初から、人間に病気や不具合を植え付ける、あるいは機能を奪わせるために遺伝子を利用する、**悪人ども**、**サタンども**にとっては、これほど便利で、手軽に人を騙せる方法はないということの意味するだろう。

「馬鹿は風邪を引かない」と昔から言う。これは真理であろう。どこかをわずかに壊すことによって、風邪もひかないような鈍感な体質を作っておけば、確かに風邪はひかないだろう。しかし我々は、広い意味で風邪を引きやすいような、繊細さや、精妙な感覚を養うことによって、高度な文化を作り出している。ベートーベンやシェークスピアや芭蕉や杜甫は、広い意味での病気に罹りやすさ susceptibility を持っているだろう。彼らを遺伝子治

療によって、健康＝鈍感な人間に作り変えようとする者たちが、今、勢力をもち、地球を征服しようとしている。

デイヴィド・アイクは、イエードン博士とのインタビューの中で、「ミスター・サイコパス」とい言葉を誰かに奉っていた。ありていに言えば、それはビル・ゲイツである。しかし、これはもちろんゲイツに限らない。サイコパスという言葉を知っている人は、今アメリカで起こっている、バイデンを中心とする文化大革命が、サイコパス革命だと気づくだろう。これが今、遺伝子操作技術を中心として、人間から人間の感情を抜き去る、また道徳をも破壊する、人間大改造を起こそうとしている。いわば、かつての共産主義的人間改造を、遺伝子を使ってやろうとしている。これは当然、「改悪」の最たるものだが、「改善」に見せかけてやろうとしている。

こういう恐ろしい動きに対決するには、ただ恐れてもしかたがない。「彼ら」が最も望んでいるもの、狙っているのが何であるかを見極めることである。それは我々の道徳的骨抜きである。ゾンビ化と言ってもよい。ゾンビという言葉はアイク氏も確か使っていた。もっと明確に、かつ毅然とした表現をすることができる。彼らが狙っているのは、我々に**神との絆を断たせる**ことだ。神という言葉を使いたくない人は、「魂」でもよい。これもアイクが強調していた。我々は遺伝子として生きているのではない。AIのチップとして生きているのでもない。我々は、その中に自分が取り込まれ、しかも受動的でなく能動的に生きている「大きな魂」の一部である。彼らはこの事実を消してしまいたいのだ。なぜなら彼らは、サイコパスとしてこの宇宙に君臨したいからである。そしてサイコパスとして君臨するためには、人民がサイコパスでなければならない。自分たちより上の者がいてはならない。バイデン大統領の言葉には常に、「**お前たち人民ども**」という語気が漂っている。

我々にとってこの世界は、もう我々の住む所ではなくなった、という違和感を最も如実に感じさせるものが、デンバー国際空港の壁画の数々であろう。そこには彫刻もあるので、未見の方々は見ていただきたい。こういう世界を、冗談でも遊びでもなく、本当に実現させようとして、権力を握っている、目に見えない「ビッグブラザー」などと呼ばれる者たちが、実在するということは実に恐るべきことである。ここに表現されているのは、我々の普通に考える「芸術」の反対概念であろう。

今、恐ろしい猛スピードで、我々の魂の略奪・破壊戦争が進んでいる。おそらく一両日中にも、進行中の新しい遺伝子技術の、驚嘆すべきニュースが、確定版として報道されると思われる。